



至高のロシアバレエ  
写真画家  
マーク・オリッチの世界  
ロシア音楽とともに

ナビゲーター  
アンドレイ・オルロフ  
Andrei Orlov

ピアノ  
中谷彩花  
Sayaka Nakaya

チェロ  
ドミトリー・フェイギン  
Dmitry Feygin

トランペット  
アレクセイ・トカレフ  
Alexei Tokarev

■同時開催：世界的バレエ写真画家マーク・オリッチ作品ギャラリー（3階ロビーにて開催）

2021 8. 2 (月) 19時開演 [17時00分開場]

関内ホール 大ホール

【マーク・オリッチ作品公式日本初公開記念 セレモニーイベント】

至高のロシアバレエ  
写真画家  
マーク・オリッチの世界  
ロシア音楽とともに

プログラム  
Program

オープニング・ファンファーレ

M. A. シャルパンティエ: 《テ・デウム》より『前奏曲』

M. A. Charpentier - "Prelude" from «Te Deum»

[演奏: アレクセイ・トカレフ (トランペット) & 中谷彩花 (ピアノ)]

J. S. バッハ: 《無伴奏チェロ組曲》より第1番『プレリュード』

J.S. Bach - «The six Cello Suites», N°1, "Prelude"

[演奏: ドミトリー・フェイギン (チェロ)]

Ch. C. サン＝サンス: 《動物の謝肉祭》より『白鳥』

Ch. C. Saint - Saëns - «The Carnival of Animals», "The Swan"

[演奏: ドミトリー・フェイギン (チェロ) & 中谷彩花 (ピアノ)]

S. V. ラフマニノフ: 《幻想的小品集》より前奏曲『鐘』嬰ハ短調

S. V. Rakhmaninov - «Morceaux de fantaisie», Prelude cis-moll ("Bell's")

[演奏: 中谷彩花 (ピアノ)]

S. V. ラフマニノフ: 《12の歌、Op. 14》より第11曲『春の洪水』

S. V. Rakhmaninov - "Spring Waters" from «12 Romances, op.14»

[演奏: アレクセイ・トカレフ (トランペット) & 中谷彩花 (ピアノ)]

P. I. チャイコフスキー: 『夜想曲(ノクターン) 二短調』 Op.19-4

P. I. Tchaikovsky - "Nocturne d-moll", Op.19 - 4

[演奏: ドミトリー・フェイギン (チェロ) & 中谷彩花 (ピアノ)]

P. I. チャイコフスキー: バレエ《白鳥の湖》より『ナポリの踊り』

P. I. Tchaikovsky - "Neapolitan Dance" from ballet «Swan Lake»

[演奏: アレクセイ・トカレフ (トランペット) & 中谷彩花 (ピアノ)]

A.K. リャドフ: 《2つの小品》より『ワルツ』 Op. 9-1 嬰へ短調

A.K. Lyadov - "Valse fis - moll" from «2 Morceaux», op. 9-1

[演奏: 中谷彩花 (ピアノ)]

V. ザデラツキー: 『前奏曲とフーガ第3番ト長調』

Vs. Zaderatsky - "Prelude & Fugue N°3"

[演奏: 中谷彩花 (ピアノ)]

R. シCHEDリン: 『アルベニス風に』 (T. ドクシツェル編曲)

R. Shchedrin - "Imitating Albéniz" (arr. T. Dokshitser)

[演奏: アレクセイ・トカレフ (トランペット) & 中谷彩花 (ピアノ)]



## 写真画家 マーク・オリッチ

マーク・オリッチはオムスクで生まれたロシアの写真画家。

演劇学校と美術学校を卒業し、2002年から写真に取り組み始めました。

もともと絵を描いていたマークですが、サンクトペテルブルクに移住し創作の危機に見舞われたと言っています。その後マリンスキー劇場の舞台美術家となり、いつしか劇場でトレーニングやリハーサルをするダンサーたちの「舞台裏」を撮影するようになりました。彼の作品の目的は、舞台裏の内側と外側の公演を隔てる境界で何が起きているのかを表現すること。彼の写真を見る人は、普段の人と舞台上のヒーローの違いを見ることができます。マークが撮影する際の唯一かつ重要なルールは「被写体の邪魔をしない」こと。その場の雰囲気を変えないように、カメラにはマスクングを施して撮影することで、マリンスキー劇場での生活を完全に自然な形で撮影することができるのです。また彼の写真は写真と絵画を合わせた独自の技法で作品として仕上げられ、世界中で高い評価を受けています。

### プロフィール Profile

ナビゲーター: **アンドレイ・オルロフ** Andrei Orlov

ロシア・イジェフスク出身。ロシア国立ウドムルト芸術大学を首席で卒業し、教育振付家としてロシア国家芸術学士号を取得。ロシア国立チャイコフスキー記念ウドムルトオペラバレエ劇場、バレエカンパニー“Moscow city ballet”にて数々の舞台に立ち、Dance Company “アンサンブル・イジェフスク”にてバレエマスター、振付家として活動。

2012年に日本に拠点を移し、谷桃子バレエ団を経てフリーになる。民族舞踊の振付家としてNHK、東海テレビ、朝日テレビなど数多くのメディアに出演。DA PUMP、ももいろクローバーZなど多数の芸能人に振付・指導。CM多数出演。2018年ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー日本公式パートナー「一般社団法人日本ワガノワバレエ協会」を設立し代表理事に就任。2019年12月「IMPRESSARIO合同会社」を設立。

2020年4月よりディアナ・ヴィシニョワ基金と共同事業を開始し、ロシアのトップバレエアーティストと日本のバレエファンをつなぐバレエの教育事業「バレエメッセ(BalletMesse)」を展開。日本国内で開催される数々のバレエコンクールの審査委員を務めている。

トランペット: **アレクセイ・トカレフ** Alexei Tokarev, Trumpet

1964年、ロシアのレニングラード(現サンクトペテルスブルク)生まれのトランペット奏者。13歳からトランペットを始め、1985年レニングラード音楽院に入学、ユーリー・ポリシヤノフ、ベンヤミン・マルグーリン教授に師事する。在学中から高く評価され、名門レニングラード交響楽団に入団、1997年には首席奏者となった。1999年同団を退団し日本に居を移す。若杉弘、大友直人、現田茂夫らと共演するなど意欲的な活動を続けている。マイスターミュージックより、「ロシアン・トランペット」「アルチュニヤン・トランペット協奏曲」「ALBUMBLATT」「トランペット・ヴォランタリー」の4枚のソロCDがリリースされている。

チェロ: **ドミトリー・フェイギン** Domitry Feygine, Cello

1968年モスクワ生まれ。父は有名なチェリスト、ヴァレンティン・フェイギン。母は有名なチェロ教師、ガリーナ・ズーヴァレヴァ。1975年モスクワ音楽院附属中央音楽学校で英才教育を受け、1986年モスクワ音楽院へ入学、同大学院を卒業。その間父にチェロを、室内楽をショスタコーヴィチ四重奏団のチェロ奏者、アレクサンドル・コルチャギンなどに師事。1991年モスクワ音楽院大ホールにて、アレクサンドル・ヴェデルニコフの指揮によるチャイコフスキー「ロココ風の主題による変奏曲」でデビュー。同年サンクトペテルブルクで開催された第1回ショスタコーヴィチ国際室内楽コンクールで優勝、加えてシュニトケ賞と、ショスタコーヴィチ夫人からソナタ賞を授与される。1996年、第2回全日本ビバホールチェロコンクールで第2位に入賞。これまでに、ロシア国内をはじめウクライナ、ハンガリー、イタリア、フランス、ベルギーで演奏活動を行なう。日本とロシアを中心にソロ、室内楽で活動する。現在、東京音楽大学教授。

ピアノ: **中谷彩花** Sayaka Nakatani, Piano

広島県出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、ロシアグネーシン音楽アカデミーを卒業。在学中にヒロシマ平和創造基金中村音楽奨学生、ロシア政府全額給費生、文化庁新進芸術家海外研修員として研鑽を積む。これまでにベラルーシ国立室内管弦楽団、ヤロスラヴリ交響楽団、浜松交響楽団など国内外のオーケストラと共演。浜松国際ピアノアカデミーコンクール、スカヴロンスキー国際コンクール、メネル国際コンクール他で優勝、上位入賞。CHANEL Pygmalion Days Artist 2015。一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)正会員。現在、神戸市在住。

通訳: **ヴィクトリヤ・ラヴロワ** Victoriya Lavrova



至高のロシアバレエ  
写真画家  
マーク・オリッチの世界  
ロシア音楽とともに



【アンケートご協力お願い】  
QRコードより、アンケートのご協力をお願いいたします。  
ぜひご感想などお聞かせください。  
本日はご来場いただきありがとうございました。

